川上 高司 ブログ アーカイヴ

2017年

9月24日

もうひとつの波乱ークルド人住民投票

9 月 25 日、イラクのクルド人自治区の自治政府はイラクからの独立の是非を問う住民投票を実施する。クルド人自治区は油田のあるキルクークを含むイラク北部にあり、アメリカの多大な庇護を受けて安定した統治を維持している。

その自治区が今度はイラクから分離・独立したいというのであるが、もし住民の支持を得て独立となったら、この地域はすこぶる不安定になることは火を見るより明らかだ。

イラクはクルド人、スンニ派、シーア派が混在する複雑な国家だ。アメリカが侵攻した後も分裂を回避するべくアメリカはひたすら努力して国家としてイラクを保ってきた。現実にはクルド人はスンニ派とシーア派の緩衝として機能しており、そのクルド人がイラクから分離したらイラクは宗派闘争が勃発し内戦に突入する可能性がある。

さらにクルド人独立はイラクだけの問題ではない。クルド人はイラクをはじめトルコ、シリア、イランにまたがって居住している。とりわけトルコはクルド人問題で長年悩まされており、最近のエルドガン大統領はクルド人への弾圧を強めている。イラクでクルド人が独立すればその勢いはトルコのクルド人グループ PKK にも当然及び、トルコの政情が揺さぶられかねないのである。

シリアではクルド人は少数派でありトルコとの国境に固まって居住している。だがシリアのクルド人グループも住民投票に参加を表明していて穏やかではない。シリアでは IS との戦闘がいまだ続いているが、その IS との戦闘を担っているのは実はクルド人たちである。アメリカの支援を受けて彼らはシリア自由軍を編成して戦闘の最前線にいる。その最中にシリアからの独立ともなれば、IS との闘いはますます混迷していくに違いない。アサド政権にとっても内戦後のシリアの統一が損なわれ安定した政治が望めない。そのためシリア政府を支援しているロシアやイランもクルド人住民投票には反対している。

国連安全保障理事会では、クルド人自治区の住民投票は国際情勢を不安定にし ISIS との戦闘に支障をきたすので「実施しなように」との声明を発表してこの危機を回避しようと必死である。クルド人自治区への影響力を持っているのは第 1 にアメリカである。トランプ大統領に外交手腕が問われる正念場である。